

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！

福生市立福生第七小学校
令和6年度 学校だより



くさぶえ

福生第七小学校
ホームページ



URL
<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 山岸 史子

令和7年1月8日 発行

人間は考える葦（あし）である

校長 山岸 史子

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

七小の子どもたちには終業式の時に、家族の一員として、役に立てることを見付けてできる冬休みにしましょうと話しました。子どもに言うからには自分も何かせねばと思い、年末に実家の片付けに手を付けました。すると、一人暮らしをすることになったときに置き去りにしてきた高校時代の教科書を発見…。片付け処分の苦手な性分を目の当たりにし愕然としましたが、懐かしくなりページをめくってしまいました。大好きだった生物のノートはなかなか気合いの入った解説図を描いていて、やはり捨てられず再び箱の中へ。他には社会科の教科書が何冊か。倫理が好きだったことを思い出しました。

「人間は考える葦である」。誰もがどこかで聞いたことのあるフランスの哲学者パスカルの言葉ですが、哲学の魅力を知ったこの言葉に出会ったのも中学生、高校生の頃でしょうか。

現代の子どもたちは、私が子どもの頃より、たくさんの情報の中で生活しています。疑問はインターネットでささっと検索でき、今ある正解に早くたどり着けるでしょう。考える間もなく行きつけるのです。

その分、楽しさを奪われているのではないかと思うことがあります。疑問がわいたときに、年相応の知識や経験を駆使して、こうなのではないかあなのではないかと考え、自分なりに「きっとこうに違いない」と結論を出す。考えるという行為は、特別な何かは必要なく、自分自身がいれば生み出せる人間ならではの「楽しみ」でもあると思います。

「人間は考える葦である」。人間は自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎないが、考えることができる。考えるということの偉大さ素晴らしさを表したものです。心の柔らかい子どもの時に、自由に思いめぐらし、自分の様々な経験を基に考えることや、それを誰かと伝え合い話し合うことは、きっとこれから生きていくうえでの大きな力になると思います。この「誰か」は、家族や学校・習い事の先生など身近な大人、信頼できる友人たちが担えたら最高です。そして子どもたちには、相手のことを考え、自分のことを考え、社会・世界のことを考え、より良い未来を追究していけるようになってほしいと思います。

1月18日(土)は道徳授業地区公開講座があります。「道徳授業地区公開講座」は、平成10年から東京都が学校が家庭や地域と一体となって子どもたちの道徳教育について考え、連携してこうと始められたものです。授業を参観していただいたり、6年生の授業に参加していただいたりして、じっくりと周りのひと・こと・ものや出来事を通して、自分について考える時間を、子どもたちと一緒に味わいにいらしてください。

そして、意見交換会にご参加ください。授業を観て・受けて感じた事や、日頃感じている道徳授業や道徳教育に対して思う事や疑問等をお聞かせいただけたら嬉しいです。

ぜひ一緒に、考えることを楽しみにいらしてください。お待ちしております。

